

6月6日(月)	
13:30~15:00	<p>「岐路にきた化学プラントの安全管理」</p> <p style="text-align: right;">東京工業大学 中村 昌允 氏</p> <p>3件の化学プラント重大事故から約4年が経過した。その後の事故の状況も加えて、化学プラントで起きている事故の背景要因と、製造現場での安全管理上の課題を検証する。製造現場では、「人」「設備」「管理範囲」が大きく変化してきている。熟練技能者が少なくなり、若手主体の生産活動への移行、老朽化する設備の維持管理に伴う漏洩事故、さらには、管理職業務の過重化などの変化が起きている。これらの状況を踏まえて、これからの化学プラントの安全管理について考えたい。あわせて、日本学術会議が2014年9月に発表した「工学システムの安全目標の考え方」を紹介する。</p>
15:15~16:45	<p>「安全管理活動におけるヒューマンファクターズ」</p> <p style="text-align: right;">慶應義塾大学 岡田 有策 氏</p> <p>—ヒューマンエラー低減に向けたマネジメント— 顧客、社会の安心を得るといった視点からの活動へ</p> <p>安全管理上のトラブルを引き起こすヒューマンエラーを防止するための仕組み、すなわちヒューマンエラー・マネジメント・システムを確立することは、現在の企業・組織における重要な課題の一つである。そのためには、組織におけるヒューマンエラーに関わる安全管理活動に関する理解・意識の状態を把握し、その状態の改善を図ることで、組織における安全に対する風土・文化を醸成させることが、様々な安全管理活動の実質を高めることになる。ここでは、現在いくつかの企業で実践しているヒューマンエラー・マネジメント活動の基本的考え方及び事例について紹介する。</p>
17:00~18:00	親 睦 会
6月7日(火)	
9:15~10:45	<p>「ヒューマンファクターツールを活用した従事員の“安全力”の向上」</p> <p style="text-align: right;">JR東日本研究開発センター 楠神 健 氏</p> <p>ヒューマンファクターツールを活用した従事員の“安全力”の向上現場の安全力向上を目的に活用しているヒューマンファクターツールを紹介する。具体的には、他箇所が発生した事象から自区所の教訓抽出を支援する『他山の石』置換え支援ツール、東日本大震災における避難誘導の分析およびそれに基づく臨機応変な対応能力を高めるための『異常時イメージトレーニング法』、現場の安全に役立つ情報の収集・共有化を促進するための情報バンク『安全ポータル』などについて紹介する。</p>
11:00~12:30	<p>「ゼロ災継続を目指した研究所での安全文化の深化活動」</p> <p style="text-align: right;">住友化学株式会社 木田 泰孝 氏</p> <p>当研究所は開所から27年間に渡って社員休業無災害を継続中である。この安全成績は、トップによる安全第一の姿勢と全所員との安全に対する価値観の共有、OSHMS を活用した系統的な安全管理の仕組み、地道な安全文化の深化活動などによって達成されたものと考えている。災害の未然防止を目指した安全文化を創造し、さらに深化させるための工夫や仕組みについて具体的な事例を紹介する。</p>
12:30~13:30	休 憩
13:30~15:00	<p>「建設現場の安全管理への取組みに関する活動事例」</p> <p style="text-align: right;">鹿島建設株式会社 須藤 英明 氏</p> <p>建設業は国土整備の根幹を担う産業分野の一つである。ダム・トンネル・発電所・上下水道・新幹線や高速道路網・高層ビル等は、社会の発展と利便性向上に大きく貢献している。近年はこうした大型構造物の維持補修や延命化の必要性も高まり、地球の自然にも優しい円熟した社会資本施設の整備が、少子高齢化とも相俟ってますます大切な時代を迎えつつある。加えて、先般の東日本大震災からの復興や、国土の防災・減災・耐災の観点からも、建設業の果たすべき役割はきわめて大きい。しかし建設業を取り巻く環境、とりわけ「作業の安全」には、他産業に比べ多くのリスクが顕在的あるいは潜在的に存在する。こうした情勢に鑑み、建設現場における作業上のリスクを少しでも回避するための安全管理実務の工夫や努力に着目し、いくつかの事例を紹介したい。</p>
15:15~16:45	<p>「航空会社における安全管理の最新動向」</p> <p style="text-align: right;">全日本空輸株式会社 田中 龍郎 氏</p> <p>航空会社においては、2006年に安全マネジメントシステム(SMS)を導入し、事故・重大インシデントを未然に防ぐ活動を行ってきた。ここではANAグループが実践しているSMS、中でも安全リスクマネジメントの具体的なやり方と安全推進活動の実際、SMSを支えるものとしての非懲罰の考え方を中心とした企業内安全文化の醸成、お客様に安心して乗っていただくための取り組み、などについて紹介する。</p>